注意！
■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制（農薬使用基準等）等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意下さい。

農作物技術情報　第７号　野　　菜

発行日　平成２０年９月２５日
発　行　岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編　集　中央農業改良普及センター県域普及グループ（電話　0197-68-4435）

「いわてアグリベンチャーネット」は９月１日からリニューアル！
新しいアドレスは「ｈｔｔｐ://i-ａｇｒｉ.ｎｅｔ」（過去記事は http://www.nougyou.kitakami.iwate.jp/agri/）

◆雨よけトマト　保温と裂果の発生防止
◆露地きゅうり　重要病害に対する防除の徹底
◆ほうれんそう　適切な温度管理と病害虫防除
適期は種と温度管理による品質の向上（寒締めほうれんそう）
◆大雨の事後対策　明きょの点検と草勢回復、病害の未然防止

1　生育概況

（１）露地きゅうりは、成り疲れや急激な低温による草勢の低下で出荷量は減少傾向です。べと病、炭そ病、褐斑病等の発生により収穫終盤の圃場も見られます。
（２）雨よけトマトは、小玉傾向により出荷量は減少傾向にありますが、草勢は回復傾向です。葉かび病、灰色かび病が増加傾向にあります。
（３）ハウスピーマンは、草勢の低下や斑点病の発生が多い地域があるものの、生育は概ね順調です。露地ピーマンは気象災害もなく順調です。
（４）雨よけほうれんそうは、長雨、日照不足による影響がほぼ解消しました。ホウレンソウケナガコナダニ等の害虫による被害が散見されています。寒締めほうれんそうの播種が始まっています。
（５）ねぎは、８月下旬の降雨の影響で最終土寄せができず、収穫がやや遅れている圃場も見られます。腐敗性の病害が一部で見られています。
（６）県北高冷地でのキャベツ・レタスは、病害発生などにより出荷量が減少しました。栽培は終盤に向かっています。

2　技術対策

（１）雨よけトマト

８月から裂果の発生が見られております。

今後、さらに発生しやすい条件が加わるので、夜間の保温に留意してください。この際、ハウスの密閉により湿度が高くなり、葉かび病や灰色かび病が再び多発したり、疫病が発生しやすくなるので、防除に努めてください。

なお、裂果の発生を軽減するために、主枝摘心後のわき芽は放任とし果実に直射日光が当たらないようにします。

また、裂果の発生軽減技術として全摘葉処理が有効です。全摘葉の処理時期は、最終収穫花房の果実がM規格以上の肥大を確認し、裂果が発生してくる９月下旬頃が目安となります。この全摘葉処理後、マルチ上に株をはわせ、不織布でトンネル被覆することで霜害を防止し、収穫期間の延長が可能となります。この処理は、ハウス内に強い霜が降りる前に実施します。

写真　全摘葉処理を行うことで、裂果の発生を防ぎ収穫可能な果実が増加する。時期は９月下旬～10 月初めまでとする

（２）露地きゅうり

成り疲れと、炭そ病や褐斑病・べと病のまん延による草勢低下が顕著になります。特に、炭そ病と褐斑病を誤診している場面も見られますので、圃場での発生状況をチェックして防除に努めてください。この際、発病がひどい株は抜き取り、圃場外へ持ち出すことも必要です。また、ワタヘリクロノメイガによる果実への食害も見られますので注意してください。

今後は、気温も低下してくることから強い摘心は控え、アーチから飛び出した弱い芯を指先で摘む程度に止めます。摘葉は病葉・古葉・黄化葉等を中心に行い、追肥は収穫量を考慮しながら速効性のタイプを施用し草勢維持を図りましょう。

（３）雨よけほうれんそう

年内収穫のためのは種時期はほぼ終わりです。現在生育中のほうれんそうが確実に収穫できるように、ハウスの開け閉めなどによる温度管理を適切に行いましょう。

ハウスを閉める時間が長くなると、べと病の発生も多くなります。べと病抵抗性品種を利用している場合であっても、日中は積極的に換気して、病害が発生しにくい条件にしましょう。

ホウレンソウケナガコナダニによる被害が多くなる時期です。特に、春に被害があった圃場では、殺虫剤の散布を行いましょう。農薬散布は薬液が心葉まで届くように丁寧に行いましょう。

ハウス内への雨水の流入により枯死する例も見られています。圃場周辺の明きょはできるだけ深くして排水対策を十分に行いましょう。

作付け終了後は、来年の施肥管理適正化のために、土壌診断を受けるようにしましょう。

（４） 露地葉茎根菜類

ア　ねぎ

気温の低下とともに生育は緩慢となってきていますが、最終土寄せからの日数が長くなりすぎると、品質の低下につながりますので、計画的な作業に努めましょう。

一部でねぎの葉鞘内部に腐敗が見られています。長雨による傷みが主な要因と思われます。最終土寄せはできるだけ天候が安定している時に行いましょう。

なお、農薬散布は収穫前日数に注意して適正に行いましょう。

イ　キャベツ・レタス

県北高冷地の収穫は終盤です。作付け終了後のマルチ、残渣の処理を適切に行いましょう。病害により収穫できなかったものは早めに処理して、被害が蔓延しないように注意しましょう。

来年に向けて土壌診断の実施や堆肥施用による土づくりに努めましょう。

（５） 冬春野菜

ア　寒締めほうれんそう

パイプハウスを利用する場合のは種期の限界は、地域や気象経過、品種、保温方法によっても異なりますが、１０月中旬頃が目安です。

保温のし過ぎで生育が進むと、十分な低温に遭遇する前に収穫サイズに達してしまう一方、温度が低すぎると収穫サイズに達しないまま冬を越してしまいます。本県の寒締めほうれんそうの出荷期間は１２月～翌２月が基本ですので、ほうれんそうの生育状況に応じて温度管理を行いましょう。詳しくは平成１７年度試験研究成果「寒締めほうれんそうの作期判定と生育調節技術」を参照して下さい。

大雪の影響でパイプハウスが倒壊する場合もあります。寒締めほうれんそうを作付けするハウスは一棟おきにして、作付けしないハウスはビニールを外す等、除雪しやすいようにしましょう。

イ　促成アスパラガス

気温の低下とともに地下部への養分転流が進む時期です。自然に黄化して枯れ上がるように、台風による倒伏などで茎葉が傷むことがないようにしましょう。

本年度も気温は高めに経過する予報です。根株の無理な早掘りは収量の低下につながりますので、５℃以下の遭遇時間を参考にするなど（平成１８年度岩手県農業研究センター研究成果）適切な時期の掘り上げを心がけましょう。

農作物技術情報第８号は１０月３０日（木）発行の予定です。
気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
※　発行時点での最新情報に基づき作成しております。
※　発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

9 月 15 日～11 月 15 日は秋の農作業安全月間

「気をつけて」 朝のひと声で 初心忘れず ゆとりの仕事